



合併とまちづくり

新春座談会



□ 語り合った人たち □

小島 利彦さん

横川区長・区長会長

小坂 栄子さん

PTA母親文庫運営委員会会長

太田 博久さん

諏訪圏域青年会議所 2003年度 理事長・会社役員

鮎澤 美知さん

ガールスカウト日本連盟長野県第10团团委員長

諏訪地域6市町村任意合併協議会委員

永田 暢男さん《進行》

会社会長・文化財審議委員

林 新一郎 市長

新しい年、平成15年（2003年）を迎えました。今年も市民のみなさんが、安心して豊かに、健康で暮らせるまち、住んでみたい、住み続けたいまちを実現するため、積極的に各種事業を進めてまいります。

現在の岡谷市が抱える最も重要な課題として、6市町村合併とまちづくりがあります。合併問題では、昨年10月24日任意合併協議会設立総会が開催され、現在、住民サービス一元化の調整と新市建設計画案等の策定作業に入っております。また、中心市街地の再生に向け、イルプラザを商業活性化センターと生涯学習活動センターと位置づけ、現在改修中であり、3月21日（金）にグラインドオープンします。

このことから、「合併とまちづくり」をテーマに、林市長と新春座談会を企画しました。各種団体から5人の方に、日ごろ感じていることなど、いろいろな視点から活発にお話いただきました。

市長

今年、岡谷市の中心市街地に大きな変動がありました。何回か各種団体のみなさんから、旧東急ビルをどうするかというお話を聞かせていただきました。「市で買取り有効利用してほしい」という意見が圧倒的に多かったので、市が旧東急ビルを買い取り、1・2階を商業床、3・4階を主に公的施設（生涯学習、子育て支援）にし、大型店から公的施設による活力の創出へと方向転換を図りました。

これと同時に、雇用能力開発機構より諏訪湖ハイツを100万円で市

に売却したいとの話があり、市民のみなさんの意見を聞くなかで、諏訪湖ハイツには主として福祉施設を、旧東急ビルには生涯学習施設をと、複合館の計画を二つに分け、進めてきています。

中心市街地に

ついて

〈進行〉永田さん

岡谷市として差し迫った中央町の問題、複合館の問題、諏訪湖ハイツの問題が出てきているわけですが、もとを正せば本当に世の中が変化し、岡谷市だけの問題でなく、世の中が変わりつつある変化の一環の中で、そういう具体的な問題が起きてきていると思います。まず、その岡谷市の中心市街地のお話からお聞きしたいと思います。

小島さん

中心市街地の空洞化という問題は、岡谷市に限らず国内全体で起きている問題だと思えます。少子高齢化の時代ということもあって、現在の店舗の後継者がいないという原因、もう一つは郊外に広い駐車場を持つ大型店の進出により、市街地の狭い駐車場の数にお店に行かなくなってしまうことなどこの市も同じ悩みを抱えていると思います。この現象

はやむを得ないが、岡谷市の場合には中心市街地にイルフ童画館があり、幸い旧東急ビルも新しいので、生涯学習・子育ての場として回復できればと思います。

当然、合併の問題が出てきた場合でも、岡谷市は岡谷市なりに立っていく道はあると思いますし、現在の状態はそれほど心配するものでないと思います。

〈進行〉永田さん

茅野市も駅前のベルビアが撤退しましたし、岡谷のやり方がいけないということではなく、日本中でこういう変化が起きていく中で、どうすべきかという問題だと思います。

小坂さん

主婦の立場から考えると、おみや東急とイトーヨーカ堂が無くなったことはとても残念ですね。今は値段の安いところに人がたくさん集まっているように思います。

仕事で中央町を回ったときに、シャッターが降りている店舗が目立っており、今、岡谷はこういう状況なんだと知りました。自宅が湊ということもあり、諏訪方面に出かけることもよくあります。子どもが3人いますので、生活面を考えると、ただ、お店があれば良いというのは疑問です。私たちが本当に使いたいモノ、手に取れるモノ、また選べる自由があるお店



イルフプラザと市街地

こそ、みなさんが利用すると思います。

どうしても車社会ですので、みなさんが自由にお店を選べますし、生活していくことを考えると、もっと利用できるお店が岡谷市にあればと思います。

太田さん

モノが無かった時代、モノを買うことで豊かになる時代が完全に終わって、供給過剰の時代になったことを強く感じます。商売をやっている一番悩んでいることは、どうすればお客さんが望むモノを作れるのかということ、大きな課題になってきています。これは大型店も一緒だと思います。どちらかというと、無理やりに需要を作り出していくという時



おのぶ ながた 永田 暢男さん

いく方法を考えるのも一つだと思っています。

岡谷市の中で考えると、カノラホールはすばらしい施設だと思いますが、今は岡谷市だけのカノラホールという状況が強く、潜在能力が完全に発揮されているとは思えません。諏訪で音楽・劇などの活動に携わっている人たちは、どうせやるならカノラホールでやってみたいと思っている。そういうレベルの高い施設の活用について枠組みを大きく考えると、実は市外からほとんど利用していただける、そんな活用の可能性があると思います。

代になってきたような気がします。

今まで活性化というと、大型商業施設を中心に一箇所に人を集めるとい形でしたが、そろそろ難しくなってきたと思います。これだけ交通も発達し、情報も世界レベルで行き交う時代になってきたので、もっと大きいエリアで物事を考えたほうが良いと思います。

合併の話にもつながりますが、諏訪圏域ということだと考えると、私たちはどこでも行けますし、その中には結構おもしろい店もあるので、特徴のあるものを求めて、みなさんが行き交うことになってきていると思います。今の中心市街地の現状を何とかしていくには公的な力を借りて、集まった人が利用できる、集まった人と生かして

活動に携わっている人たちは、どうせやるならカノラホールでやってみたいと思っている。そういうレベルの高い施設の活用について枠組みを大きく考えると、実は市外からほとんど利用していただける、そんな活用の可能性があると思います。

鮎澤さん

昔はまちを活性化するために、大手の資本を取り入れようと大型店を誘致したと思いますが、結果的に失敗に終わり地元商店の衰退を招きました。このような方法が、人口6万人の都市では無理だったと実感しています。

経済面で考えたときに岡谷市にあった企業・会社が他市町村に移ると、岡谷に入っていた税金が無くなるなど問題がいろいろ出てくると思いますが、合併すれば一つの市に入ること、大きく活用できると思います。

空洞化を直すには、なんと言っても外国に行つて企業に戻つてきてほしいと思います。

技術を他の国に流すということでは、ある程度は仕方ないとしても、一線を引かないと自分の国を守つていけません。

そろそろ海外から帰ってきて、日本の国内で活躍してほしい。そうすれば、経済の低迷は解決できるような気がするし、そういう企業家が早く出てきてくれないかと願っています。

中心市街地の閉じてしまった店を、どうしたら魅力的な店として起業できるかということ、行政でも支援していかなければいけないと思います。原宿のまちは小さなお店がたくさんありますが、どのように何かしたい人たちを集めて支援する組織があればと思います。

市長

岡谷の経済は、工業がしっかりしていないと、どうしても衰退してしまうという歴史的な事実があります。現在、空洞化という荒波にさらされていますが、21世紀のテクノロジーとして超精密



おさか えいこ 小坂 栄子さん

加工技術、ナノテクノロジー（10億分の1メートルという加工技術）で、微細加工をしっかりと定着させることができればと考えています。現在海外ではまねのできない、この地方が先端を切っている技術です。経済産業省も、岡谷市はスーパーバイス産地形成の可能性がある地域と大変期待をし、補助金も出していただいております。去年6月7日駅前にテクノプラザおかが完成しました。

これが空洞化に歯止めをかけ、海外にまねのできないテクノロジーを推進する大きな機関車になるよう期待しています。

合併後も、岡谷市の特徴となる施設として、活性化を推進するものと期待しています。



長野県精密工業試験場のナノマシン

合併に対する

見方は…

〈進行〉永田さん

お話に入ります。

それでは合併の

市長 6市町村合併は、現在の社会情勢をみると、今回の機会を逸することはできないと考えております。

地方分権一括法、少子高齢社会の進行、国・地方の著しく悪化した財政状況など、地方自治体を取り巻く情勢は、数年前には大変厳しくなります。平成17年3月までに合併すると、地方交付税を10年間保障する制度や、新たなまちづくりのための合併特例債など様々な財政上の恩恵があり、6市町村が合併すると20万人以上の特例市となります。合併に対し、みなさ

んの忌憚きたんのないご意見をお聞きしたいと思えます。

〈進行〉永田さん

合併は賛否両論

あると思いますが、世の中大分変わってきています。行政改革の問題、諏訪地区の人々が同じサービスを受けられる公平性の問題、都市間競争で諏訪が一つにならないればいけないという問題など見ても、合併問題は前向きに考えなければいけない。細かい問題もありますが、反対という考えは時代が許さないと私は考えています。みなさんが活躍の団体・グループの立場として、合併問題をどのようにお考えか、お聞きしたいと思えます。

小島さん

諏訪地方は、どんな共通性を持っているかと考えると、

例えば7年に1回の御柱祭があります。これは一つの目的をもつてみんながまとまるわけですが、曳行えいこう方法を見ても、上社と下社がめどてこがあるかないかという違いがあるように、伝統や文化も違うところもあります。一昨年地方分権一括法が施行され



こじまとしひこ
小島利彦さん

市長 現実に国の交付税はここ3年間に平均で4%〜5%と毎年

てその後、国の財政諮問会議の中で「国庫補助の負担金額の削減」、地方交付税の見直し「税源の移譲」という三つの柱が出てきました。これを見る限り、国が進める「地方分権」により、地方自治体の財源は必ず影響を受けると思えます。県内120市町村の財政力指数で適正基準の0.4以下の市町村は70%を超えていると言われてるので、6市町村が、今後あるべき姿・ビジョンを考えると、どうしても合併は必要ではないかと思えます。合併特例法の期限の、平成17年3月末に向かつて、着々と準備を進めていかなければならないと思えます。

減らされ、このペースで行くと10年先には、現在の行政サービスのレベルを維持することは、困難になるのが目に見えています。

この点からも、合併のご理解をいただきたいと思えます。

小坂さん

6市町村が一緒になる

ことで、教育施設が充実し、子どもたちの学ぶ環境が良い方向に向いてくれれば、合併ということも必要だと思えます。

ある地域で図書館活動が盛んという話を聞きました。様々な情報をやりとりする中で6市町村が一つにまとまることで、スムーズに意見交換ができれば変わっていくものがたくさんあるように思えます。

岡谷市だけでなく、諏訪地域全体で見たときに、小中学校、保育園がかかえる諸問題や、PTAの関わり方など昔のままを残すのではなくて、今、何が必要なのかを見直し、一人一人が考える機会になってほしいと思います。ある意味、新しい波が起きてほしいなと思えます。

私は母親文庫の委員として、図書館活動をしています。あまりにも従来のことをずっと守り過ぎていて、どこかで変えなければ無駄なお金が使われていると感じました。ぜひ一緒になることで、今